

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査における 北九州市立東朽網小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

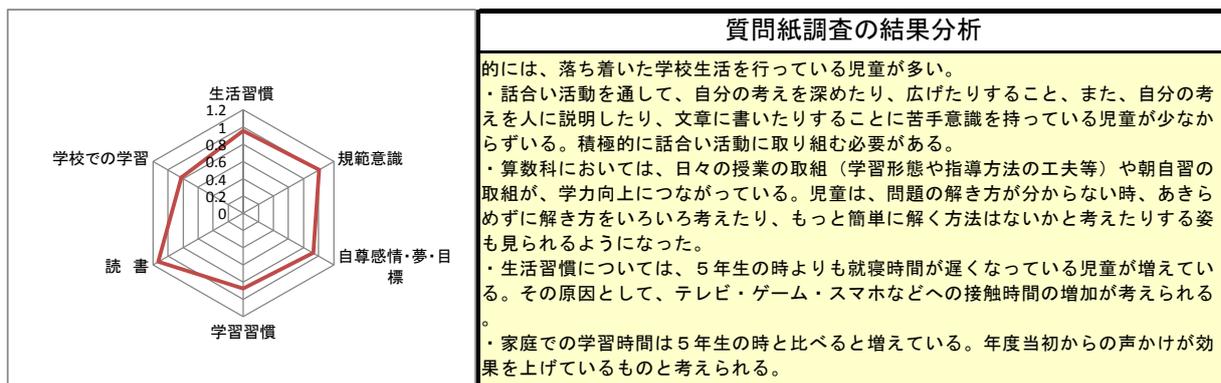
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語A・B，算数A・B）の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	どの観点においても、基礎的な知識や漢字の習得は身に付いている。
	よくできた問題	目的や意図に応じて収集した情報を関係づけながら話し合う問題や読み取る問題、ローマ字を読み解く問題は正当率が高かった。
	努力が必要な問題	ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する問題には、課題が見られた。
国語B	全体的な傾向や特徴など	学んだ事（基礎的・基本的な内容）を使って、活用する力がついてきている。目的に応じて、文章や資料を読む能力が高まっている。
	よくできた問題	本を選んだ目的の説明として適切なもの、複数の資料の内容を関連づけてまとめたものとして適切なものを選択する問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、グラフや表を基に自分の考えを書く問題に課題が見られた。
算数A	全体的な傾向や特徴など	「数と計算・図形・数量関係」の領域については、基礎的・基本的な内容が十分理解できており、正答率が高かった。
	よくできた問題	「数と計算」の問題で、数値を組み合わせた整数・小数・分数を含んだ四則計算については、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	「量と測定」領域の三角形の底辺に対応する高さを選ぶ問題に課題が見られた。
算数B	全体的な傾向や特徴など	「数と計算・量と測定・図形」の領域については、活用する力がついてきており、問題についても、粘り強く取り組んでいた。その結果、無回答率が低くなっている。
	よくできた問題	面積を求める問題や正方形に内接する円の描き方については、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	「数量関係」領域の単位量当たりの大きさを求めるために必要な情報を判断し、特定する問題や問題の意図に応じて、自分の考えを記述する問題に課題が見られた。

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概



### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

<ul style="list-style-type: none"> <li>◎学力向上推進者を中心に、学習面での課題解決に向けた話し合いを定期的実施。</li> <li>◎学力向上のための特設時間の実施           <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝自習の時間に、全校一斉で問題（国語・算数の過去問題、CRTアシストシート）に取り組む。</li> <li>月…漢字タイム 火…読書タイム 水・木・金…チャレンジタイム（国語・算数）</li> </ul> </li> <li>◎「話す・聞く・書く」ことの習慣化           <ul style="list-style-type: none"> <li>・一分間スピーチの実施</li> <li>・自分の考えを文章化する場の設定をおこなう。</li> <li>・学習の最後に「振り返り」を書くことを中心に行い習慣化を図る。</li> </ul> </li> <li>◎小中連携サポーターと連携し、日々の授業において、計画的に児童に関わり学習支援を行う。</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>◎宿題のスタンダード化           <ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習のススメ」を活用して、家庭学習時間（低学年20～30分、中学年30～40分、高学年50～60分）を設定する。</li> <li>・「家庭学習チャレンジブック」を活用して、家庭と連携しながら、家庭学習を進める。</li> <li>・長期休業日中の宿題に、過去問題やアシストシートを活用する。</li> <li>・高学年を中心に、自主学習ノートづくり（国語科や算数科を中心に、授業内容の振り返りや、発展的な学習）に取り組む。</li> </ul> </li> <li>◎全国学力・学習状況調査の課題や今後の取組などを学校便り・学級通信等で保護者に周知を図る。</li> </ul>
--